

川西コミュニティ
まちづくり計画



平成23年
川西地区地域づくり推進協議会

はじめに

私達の町は、121年前の明治23年2月15日（1890年）西小川村と西二村の両村が合併して（明治21年4月町村制公布）、川西村となりました。その後、昭和32年（1957年）市町村合併政策の推進で丸亀市と合併し現在に至っております。

地勢的に讃岐平野のほぼ中心にあたり、讃岐富士を朝な夕なに望み、阿讃山脈を源流とする土器川左岸に沿い、南北4.3キロ余り、東西1.2キロ余り、丸亀城から辰の方向にある自然に恵まれた町です。

昭和30年代までは、世帯数580余り、人口3,000人余り。産業は水田農業を主とする純農村でした。経済高度成長政策の展開によって、工業を中心とする産業育成から本県でも、塩田跡地・番の州工業団地造成による企業誘致、更に、瀬戸大橋が開通し、経済基盤の人・物・金の流れがこの30年余りで急速に変化を遂げました。

新しい産業の定着と共に川西町も大きく姿を変えています。平成22年12月1日現在の町の勢力は、世帯数2,573 人口6,904人（男性3,402、女性3,502）と大きくなりました。

近年、町内に商業施設等生活関連施設の進出などで、生活環境と自然環境の調和が大切なこととなっています。

このような環境のなか平成7年（1995年3月）新しい町づくり体制のため、コミュニティと連合自治会との一体的取り組みをはじめ婦人会、体育協会、民生委員会、長寿会、福祉ママ、および地元企業等からなる代議員160名が母体となって部会を形成し、「川西地域づくり推進協議会」が次の6スローガンを基本理念として発足しました。

- ① きれいで住みやすい町づくりを目指す
- ② 健やかに伸び伸びとした子供達を育てるためコミュニティと学校との連携を深める
- ③ 健康生活のベースとなるスポーツ活動、野外活動を積極的に計画し「元気印の川西」の構築
- ④ 手作りイベントによる地域活性化と住民同士のつながりを深める
- ⑤ 明るく、楽しいコミュニケーションあふれる町づくり
- ⑥ 自主防災を確立するため積極的な訓練実施と防災備品の充実を図る

この基本理念実行のために、次の部会活動で具体的な運動を展開しています。

[I] 総務部会

コミュニティの運営管理、広報活動（コミュニティだより隔月発行）
イベント計画、研修活動等

[II] 人権部

人権啓発活動(児童福祉標語募集、啓発看板設置、講演会参加)、

[Ⅲ] 環境部

フレッシュ「香の川」フレンドシップ参画（土器川、古子川清掃 年8回）、
環境美化推進（古子川流域緑化植樹）、環境調査活動（小学校児童との連携）

[Ⅳ] 福祉部

ネットワークづくり（友愛訪問、要援護者支援マップ、給食活動、敬老事業、
施設訪問等）、共同募金活動

[Ⅴ] 青少年健全育成部

イベント（親子もちつき大会、夏祭り、ふれあい農園野菜づくり）、補導活動

[Ⅵ] 体育部

町民体育祭、ウォーキング大会、ソフトボール大会

[Ⅶ] 防災部

防災訓練の実施、防災マップの作成、防災備品充実、救命救護講習の計画的実施

各部は、それぞれ機能分担しあるいは相互協力しながら今日を迎えています。その協同活動の結果、平成22年3月「第14回防災まちづくり大賞」総務大臣賞を受賞、さらに同年9月には、防災功労者内閣総理大臣表彰の栄に輝くなど、私達の活動は、飛躍的に成長してきました。

これからも先人の歩みを尊重しながら、川西町に住む人が絆を結びあって、更に発展していきたいものです。そのために当面の問題点を明確にして、新しい町づくり活動計画を進めます。



現 状 と 課 題

長い活動の中で共同社会の町づくりは、皆さんの考えが尊重されて大きな流れが生まれることが望ましいのですが、次の問題点があります。

- (1) 自分が所属する組織・団体などの活動に時間をとられてコミュニティ活動に参加する時間がとりにくくなっています。
- (2) 活動を活発にするほどバックアップ体制が不足しがちです。
- (3) 行政の地域コミュニティ対応と協議会との連携・分担が政策によっては明確でないことがあります。



これからの私たちは！

各団体、組織メンバーが協調を旨として組織発足の原点にかえり下記目標を共有して新しいまちづくり計画を策定して課題に取り組みます。

新しい町づくりの重要目標

「自主性」と「相互信頼」を基本として みんなで すすめよう！

- (1) 快適で安全な生活環境
- (2) 健康で文化的な生活がおくれる
- (3) 心ふれあう、住みよい豊かなまちづくり

お互いの努力目標

目標実現のため、次のとおり推進策を定め各部会で積極的な活動を行います。

- (1) 社会福祉活動の推進
- (2) 地域環境対策の推進
- (3) 人権啓発活動の推進
- (4) 健康づくり運動の推進
- (5) 安心安全なまちづくり 地域防災の強化推進
- (6) 青少年健全育成の推進
- (7) 保健、栄養思想の普及
- (8) 自治会・企業・団体との連携強化
- (9) 教育文化活動の推進



学校・団体・企業との連携模様

各部会の実践計画

[I] 総務部会

- (1) 総合企画・調整の機能を更に発揮します。
- (2) 町ぐるみ運動テーマ採択の手立てを広く求めます。
- (3) 未組織地区の自治会組織化を行政と協調して推進していきます。
- (4) 現行事業刷新と各部会と連携を強化します。
- (5) 地域住民の実践できる「挨拶運動」など期間別活動を展開します。
- (6) 行政・団体・企業との交流をはかりコミュニティへの参加、協力を促進します。



[Ⅱ] 人権部

人権啓発活動が主要なものでありますが、特に力を入れて取り組んでいるのが

- (1) 小学校児童と連携した人権啓発の標語作りとその作品を関係機関へ配布する。
- (2) 人権週間には町内各要所に旗竿(約100本)を立て、人権意識の啓発活動を継続する。
- (3) 部会員との意見交換、コミュニケーション作りに努めるとともに、男女参画活動のシンポジウムへの参加、更には国際交流の視点に立った在留外国人とのコミュニケーション作りを他の部会と連携して取り組みたい。又、コミュニティ組織としてユニークな人権啓発イベントを模索していきたい。

助け合う心のふれ愛この町から



イベントでの啓発活動



[Ⅲ] 環境部

現状

地球温暖化現象により、生態系に異常というニュースが毎日のように流れている今日、地球環境保護への取組みは、それぞれの段階でキチンと取り組むことが急務とされております。私達、地域活動レベルにおいては、各家庭が取り組むべきものと、自治会単位並びに地域コミュニティが取り組むべきものがあります。

従来の環境部会活動においては、

土器川、古子川の環境保全活動、県道等の清掃と犬のフン持ち帰り活動を重点的に取り組み実施してきましたが、尚一層環境への取組みを強化するため次の課題に取り組めます。

課題

- 古子川における緑化事業の推進
- ① 県道・市道、水路等のゴミ回収活動の展開
- ② 小学校児童と連携した環境学習と環境探検隊の設立
- ③ 塵芥の不法投棄の監視と指導の徹底強化

取り組みを展開するにあたって、乗り越えていく課題がいくつかあります。ひとつは、自治会によってコミュニティ活動への参加意識のバラツキがあります。又、パブリック（公共施設）に対する意識、みんなで大切にしようという心がけの希薄さが散見されますが、環境部員が先頭に立って、地域の環境改善に取り組みを強化していきます。

古子川清掃模様



土器川清掃模様



環境保全活動



IV 福祉部会

現状

(1) 要援護者支援活動

災害時救援対策として要救援者名簿、マップを作成して、毎年2回見直しの調査を行っています。町内に住む70歳以上の一人暮らし高齢者全員の安否確認を兼ねた友愛訪問を毎月行い寝たきり高齢者の訪問や施設訪問を定期的に行っています。

要援護者の避難支援者に対する研修や部員対象介護研修も行っています。

(2) 共同募金活動

募金ボランティアの協力を得て、自治会未加入世帯や法人等をくまなく巡回して募金活動を行い、毎年優秀な成績を上げています。

(3) その他コミュニティ全般の行事にも積極的に参加協力しています。

要援護者介護訓練の様相



課題

(1) 災害時要援護者支援活動の充実については、行政等関係機関の積極的協力や単位自治会の理解と協力が必要です。

(2) 地域福祉を充実し、安心して暮らせるための指導者養成やボランティア要員の確保が必要です。



対応

(1) 災害時要援護者支援活動の充実のため、行政等関係機関に情報の提供などを強く働きかけます。又、自治会へ要援護者支援の必要性について理解が得られるよう働きかけ、災害時における要援護者の安否確認や避難支援が円滑に行われるよう強力に推進します。

(2) 在住する身体障がい者対策として安心安全協力推進体制を強化します。

(3) 入所希望保育児の早期解決運動につとめます。

(4) ボランティア要員の確保やリーダーの育成などにつとめ、高齢者が楽しく集える場所としての「いきいきサロン」の発足や「徘徊対策ネットワークづくり」、「子供や高齢者の虐待防止の情報ネットワークづくり」などによる安心して暮らせるまちづくりを目指します

(1) 地区内の高齢者数 (平成22年1月1日現在)

	人口	世帯数	高齢者数	
			65歳以上	75歳以上
男性	3,474		572	209
女性	3,553		738	355
合計	7,027	2,830	1,310	564

(2) 地区内の自宅での一人暮らし高齢者 (平成22年1月1日現在)

	65歳以上	70歳以上	合計
男性	7	26	33
女性	6	66	72
合計	13	92	105

(3) 地区内の自宅での寝たきり高齢者 (平成22年2月1日現在)

男性	7
女性	5
合計	12

(4) 地区内の要介護認定者数

() は認定者の内、施設入所者 (平成22年2月15日現在)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男性	4	14 (2)	7 (1)	7 (3)	7 (3)	39 (9)
女性	23 (3)	22 (9)	19 (10)	11 (8)	9 (7)	84 (37)
合計	27 (3)	36 (11)	26 (11)	18 (11)	16 (10)	123 (46)

(5) 地区内の身体障がい者数 (平成22年2月1日現在)

	1級	2級	3級	合計
男性	44	24	30	98
女性	41	20	20	81
合計	85	44	50	179

V 青少年健全育成部

青少年健全育成部では、地域内の縦（世代間）と横（地域）のつながりを深め、将来の『まちづくり』を担う後継者の育成を目標に活動を行っています。小学校や幼稚園などとも連携しながら、農業体験や伝統的文化・行事など地域の人達の交流の場を通じて、「ふるさと」川西町を誇りに持てる人材育成に取り組んでいきたいと考えています。

1. 今後の目標

- (1) さまざまな分野からの人材づくり
- (2) 地域の各世代が交流できる場づくり
- (3) 小学校・幼稚園・保育所等との連携づくり
- (4) 見回り補導を通じた安全で安心なまちづくり

2. 目標に向けた当面の取り組み

- (1) さまざまな分野からの人材づくり

① 育成者づくり

後継者を育成するためには、まず、育成者の人材づくりが必要です。このため、青少年健全育成に関する研修・講習会に積極的に参加し、育成者の人材づくりに取り組みます。

② 各世代の人材づくり

地域の世代間のつながりを強化するためには、大人と幼稚園児や小学生との関係だけでなく、中間的な世代のつながりも必要です。このため、あらゆる行事の中で高校生や大学生など中間的な世代が活躍できる場をつくり、切れ目のない人材づくりに取り組みます。

- (2) 地域の各世代が交流できる場づくり

① 川西町愛♥会まつり

夏まつりが、地域の人達に愛着の持てる行事となれるよう愛称を公募し「川西町愛♥会まつり」と命名しました。城辰小学校とも連携を強化し、平成22年は約1000名の方に参加いただきました。

今後とも、「川西町愛♥会まつり」を各世代が交流できる場となり、将来を担う人材が育成できるように積極的に取り組みます。



2) ふれあい農園

ライフスタイルが多様化され家族で食卓を囲んで食事をする機会が減少しています。さらに、インスタント食品が普及し、食生活の乱れが進んでいます。このため、ふれあい農園を通じて食に対する関心を家族で共有させるとともに、地域の特産品などを再認識し「ふるさと」川西町を誇りにできる人材育成に取り組みます。

- ①ふるさと農園植付け体験
- ②ふるさと農園収穫体験・収穫祭
- ③ふるさと農園研修会



3) 交通安全キャンペーン・親子もちつき大会

昔ながらの伝統的な行事である餅つきを通じて、地域の連携を深め、また、警察官と一緒に、交通安全を呼び掛けながら通行する車に餅を配布し、交通安全活動を通じて将来を担う人材育成に取り組みます。



(3) 小学校・幼稚園・保育所等との連携づくり

- 1) 各行事を通じた連携強化（手作りポスター、金管バンドなど夏まつりへの参加）
- 2) PTA 行事への協力（チャリティバザーなど）

(4) 見回り補導を通じた安全で安心なまちづくり

安全・安心なまちづくりを行うため、地域、PTA、学校などのボランティア活動と連携した防犯活動に取り組みます。

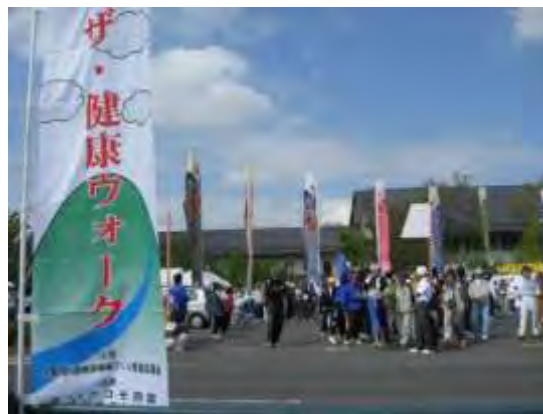
VI 体育部会

1. 3年後のあるべき姿

体育部会では、お年寄りから子供までの全コミュニティ構成員が、健康で活気のある生活が送れる地域づくりを目指しています。具体的には、全コミュニティ構成員が気楽に参加できる新規行事の立ち上げ及び既存事業の内容の見直しを行います。

キーポイントは次の通りです。

- (1) コミュニティ構成団体との連携
- (2) 自治会へ入っていない世帯の参加活動支援
- (3) 青年層が活躍（活動）できる環境の整備



2. 平成 22 年度の取り組み及び評価

平成 22 年度では、メイン行事である町民体育祭の競技内容・運営体制・広報活動に関して協議を重ね、競技種目、種目ごとの参加資格、競技時間及び広報手段について改正を行いました。大きな変更点は、①競技時間を半日に短縮したこと、②細かく分けていた参加資格をオープンにしたことです。

競技時間の短縮及び参加資格の変更に伴い、20 歳～30 歳代の青年層の割合が若干増えたと思われます。

また、ソフトバレーボール大会においても、参加資格を緩和することにより参加者が増加しました。

3. 今後の計画

平成 23 年度では、従前より行ってきた既存の種目をさらに見直し、より多くの方がスポーツを通じてふれあうことから健康で活気のある地域づくりを図って行きます。特に、最近丸亀市全体で愛好家が増えつつある室内ペタンク等、老若男女が参加できる競技大会を検討します。

4. 現在の主な取り組み

- 1) ウォーキング大会
- 2) ソフトバレーボール大会
- 3) ソフトボール大会
- 4) 市民体育祭
- 5) 町民体育祭
- 6) 丸亀ハーフマラソン



VII 防災部

川西地区での防災・減災への取り組みは、丁度 10 年目を迎えましたが、活発で体系的活動が認められ、平成 22 年 3 月に第 14 回防災まちづくり大賞において最高賞である「総務大臣賞」、同年 9 月には「防災功労者内閣総理大臣表彰の栄に輝いた。

これからも賞におごることなく、地域内の安心・安全な取り組みをしっかりと底辺から広げると共に、小・中・高等学校への防災教育にも改善を重ねる取り組みを展開していきます。更には、防災伝道師として他地域へも積極的にノウハウを展開して広域連携の絆づくりにも力を注ぎたいと思います。

今後の目標は、次のとおりです。

1. 人づくり

10 年来取り組んできた人材研修を引き続き行うこととして、更にその裾野を拡大していきます。

- (1) 防災士の資格取得者を 5 名以上とする
- (2) 要援護者の支援者拡大とモチベーション向上の施策を継続的に行います
- (3) 小学校・中学校・高等学校に対する防災教育、体系的な改善を図りつつ実施します

2. 物づくり

費用対効果を検討しつつ、拠点整備もさることながら、地域の中をしっかりとウォッチングし要所をおさえて、面的整備を行います。

- (1) 土のうステーションの設置場所を再検討します
- (2) 救出用資機材の分散設置と既設分も含めた充実策を講じます
- (3) ふれあい防災ネットワークの充実策として端末機の設置場所の見直しと端末機数の増加を図ります

3. 絆づくり

大災害に備えて、この絆づくりの成否は大きなウエイトを占めるものと考えられ、長時間かけて地道に取り組んでいきます。

[地域内での取り組み]

- (1) 企業・団体の皆様とは、双方の行事に交流を図る
更に合同防災訓練を実施します
- (2) 学校・医療機関の皆様とは、防災研修とトリアージ判定訓練などを
実施して連携を図ります
- (3) 自治会相互の交流でとるべき施策を実施して、まちなか連携を図ります

〔他地域・他団体との連携〕

- (1) 防災伝道師として出前研修、出前訓練を行った地域の皆様とは世間一般的な付き合いも含め、継続して実施することにより、広域連携の絆を深めます
- (2) 防災士会、NPO 法人、「災害に強いまちづくり研究会」、更には、かがわ自主ぼう連絡協議会等と連携を深めます
- (3) 香川大学危機管理研究センターとは、防災マップ作り、更に地質研究等、指導的役割を依頼しつつ連携を図っていきます



今後の課題

コミュニティ発足20年に向けて、更なる前進を目指しますが次の大きな課題があります。

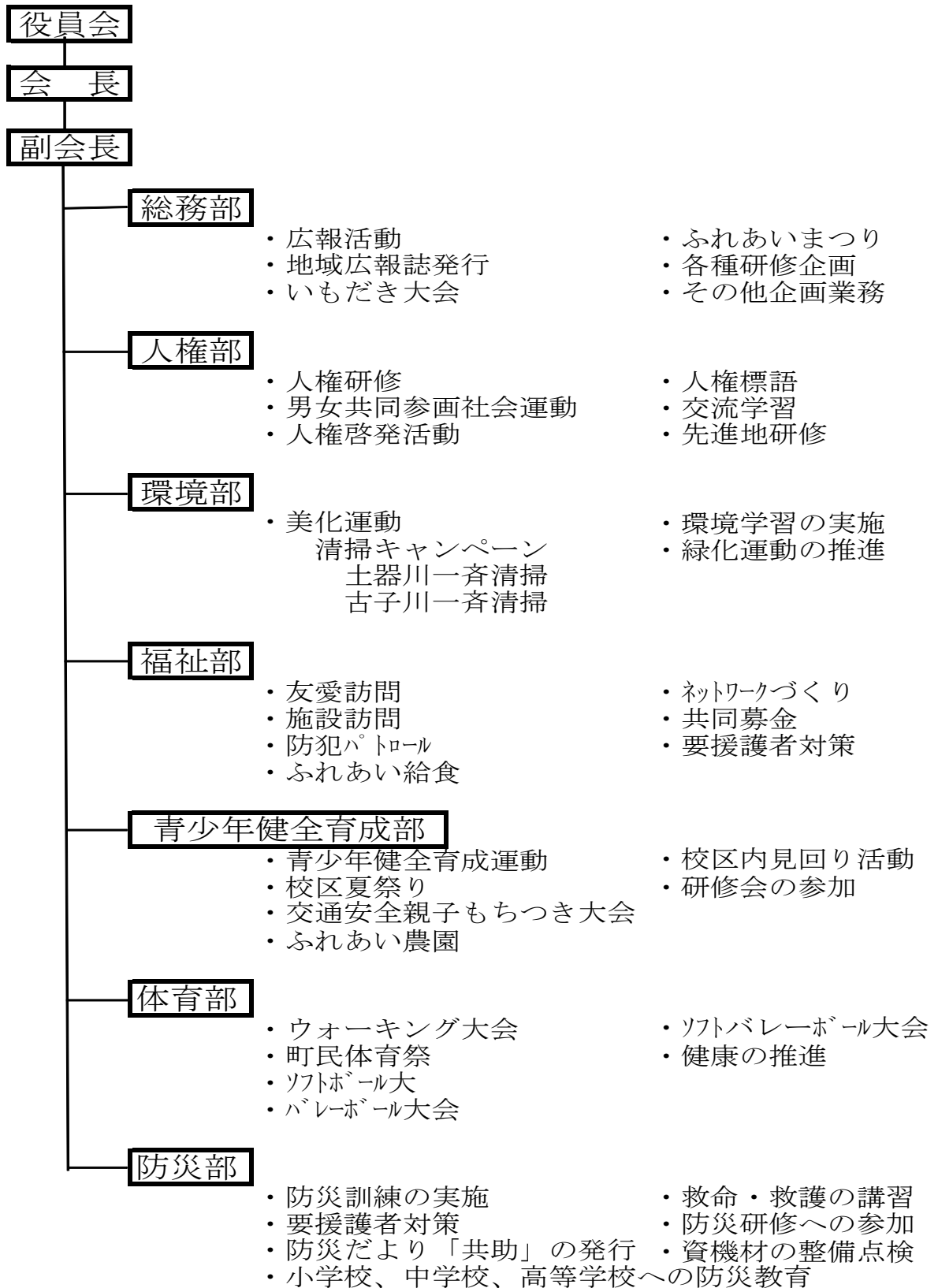
- (1) 活動が活発になれば、まず不足するのがそれを支える活動資金です。現在、地元企業をはじめ各種団体により補っていますが、抜本的解決にならないと思っています。今後行政とサービスのすみ分けも含め、活動資金についても柔軟に対処出来る方策を提案したい。
- (2) 地域の支えあいの原点はまず自治会、町内会の加入増進であります。新しく自治会、町内会を設立、又は既設の自治会に加入するなどを働きかける活動を積極的に行なう。どのような対処策が有効化、未自治会の皆さんからの意見も聴取して、取組み策を検討したい。
- (3) 多くの団体により構成しているコミュニティ組織にとって緊近の対策は、消防第8分団との連携と協調により、これからの安全・安心なまちづくりを一層おし進めるような取組体制を構築することである。
- (4) 街中、更にはコミュニティセンターの中でもよく見かけますが、挨拶の出来ない大人が増えてきたことです。まちづくりの原点は「笑顔」と「あいさつ」です。率先垂範、各組織の役員自らが実行することが肝要である。
- (5) コミュニティセンターを活動の場として、各種団体に取り組んでいる文化・芸術活動、新たに、文化・芸術部の設立を促したい。

受賞歴

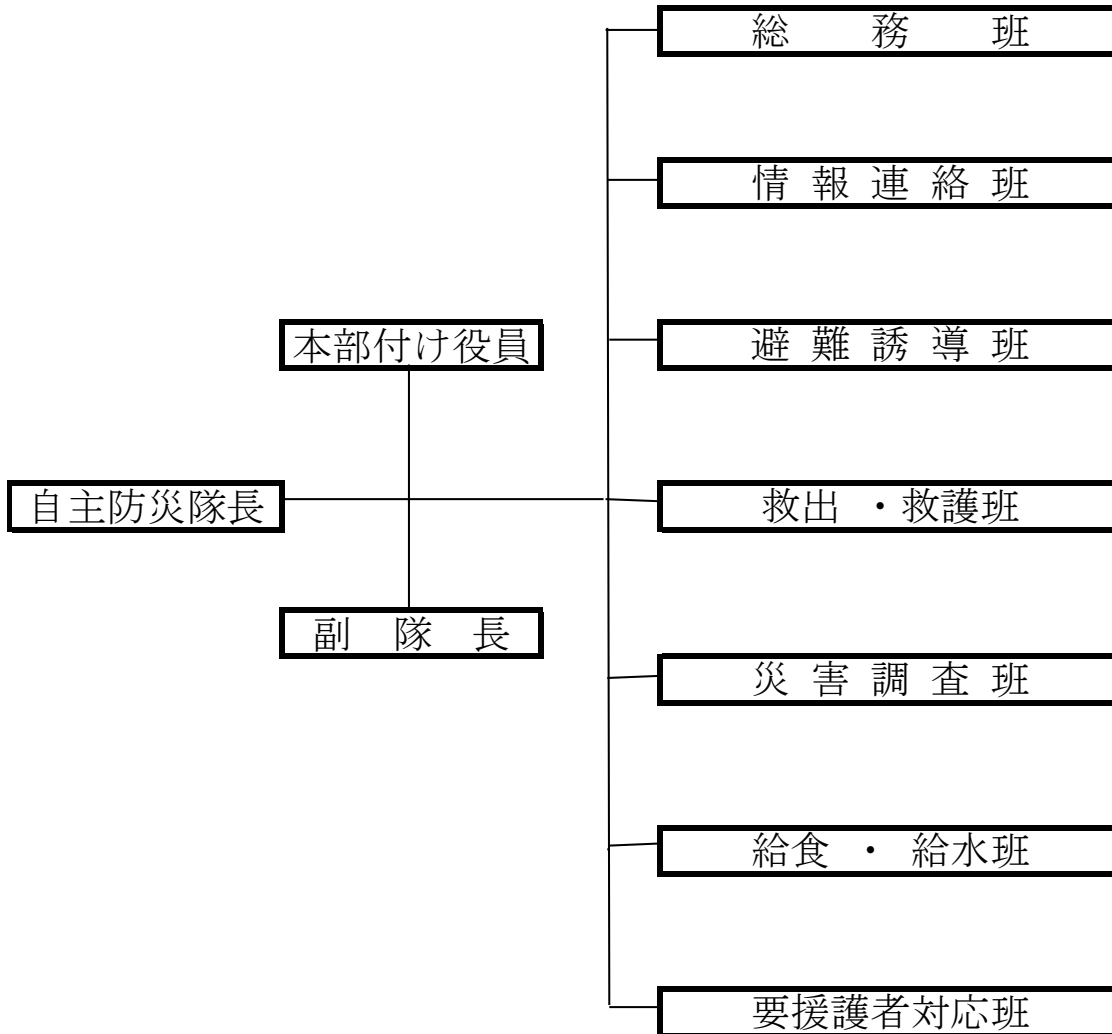
- ・ 第11回防災まちづくり大賞<消防科学総合センター理事長賞> H19. 1. 29
- ・ 地方自治法施行60周年記念 総務大臣 表彰 H19. 11. 20
- ・ 香川県知事特別表彰 第6回かがわ21世紀大賞 H20. 4. 15
- ・ 第14回防災まちづくり大賞 <総務大臣賞> H22. 3. 3
- ・ 平成22年防災功労者 内閣総理大臣表彰 H22. 9. 1

参 考 资 料

川西地区地域づくり推進協議会組織図



川西地区自主防災組織図



川西コミュニティ（川西地区連合自治会）主要事業

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・連合自治会総会 ・地域づくり協議会総会 ・コミュニティだより発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・土器川いも炊き大会 		<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいまつり ・古子川一斉清掃
環境部	<ul style="list-style-type: none"> ・土器川一斉清掃（2回） ・随時古子川等町内見回り 	<ul style="list-style-type: none"> ・土器川一斉清掃（2回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・城辰小と環境学習 ・土器川一斉清掃 ・古子川一斉清掃 	<ul style="list-style-type: none"> ・古子川一斉清掃 ・古子川緑化事業
福祉部	<ul style="list-style-type: none"> ・1人暮らし高齢者友愛訪問 ・高齢者（80歳以上）調査と訪問 ・要援護者対応の介護研修会 ・寝たきり高齢者調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人暮らし高齢者友愛訪問 ・要援護者名簿及びマップの修正 ・四国福祉大会参加 ・福祉保健推進委員研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ・共同募金活動 ・支援者キックオフ大会 ・チャリティバザー 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設訪問 ・寝たきり高齢者調査 ・古子川一斉清掃 ・要援護者、1人暮らし高齢者調査 ・ふれあい給食 ・ふれあい祭りに独り暮らし高齢者招待 ・要援護者名簿及びマップの修正
人権部		<ul style="list-style-type: none"> ・同和週間に人権啓発の旗を設置 ・夏祭りに人権啓発看板を設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権週間に人権啓発の旗を設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・古子川一斉清掃
青少年健全育成部	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなか見回り活動（毎月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区愛会い祭り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい農園の開園 ・ふれあい農園の収穫祭 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全親子もちつき大会 ・古子川一斉清掃 ・ふれあい祭り出店祭
体育部	<ul style="list-style-type: none"> ・健康ウォーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・町民ソフトバレーボール大会 ・町民ソフトボール大会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング教室開催 ・町民体育祭 	<ul style="list-style-type: none"> ・古子川一斉清掃 ・健康教室
防災部	<ul style="list-style-type: none"> ・城辰小と防災訓練 ・日中交流防災訓練 ・防災無線通話試験（毎月1日）実施 ・各種研修会への積極的参加 ・広報・防災便り共助の発行（毎月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・城辰小と防災マップ作り ・南中学校と防災研修 ・県防災研修へ小生とともに参加 ・城辰小とトリアージ研修 ・広報・防災便り共助の発行（毎月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・丸亀城西高と防災訓練 ・地域防災訓練 ・大型ショッピングセンターと防災訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ・城辰小と防災訓練 ・丸稿と防災訓練 ・古子川一斉清掃 ・広報・防災便り共助の発行（毎月） ・土のうステーション維持更新作業

まちづくり取り組み写真

防災まちづくり大賞
消防科学総合センター理事長賞
2007. 1. 30



総務大臣賞受賞



香川 21 世紀大賞 2008. 4. 15



防災まちづくり
大賞総務大臣賞
2010. 3. 3



防災功労者
内閣総理大臣賞
2010. 9. 2



NHK取材避難所設営訓練
大桃美代子さんと



城辰小防災甲子園授賞式
2011. 1. 9



お城祭りうどんで参加 2009. 5. 3



スポーツ大会 2010. 11. 19



城辰小5年交流 2011. 1. 18



長寿会の親睦旅行



中国陝西省応急管理研修班来所



要援護者の支援者ミーティング 2009. 11. 29



いも炊き大会 2010. 9. 25



ふれあい祭り



お城祭り参加 2009. 5. 3



避難訓練 NHK 取材 2011. 1. 12



町民体育祭 2010. 11. 28



ウォーキング大会&防災フェア



活 動 団 体 名

- | | | |
|------------|-------------|-------------|
| ■自治会 | ■福祉ママ会議 | ■更生保護婦人会 |
| ■婦人会 | ■土地改良 | ■北総代会 |
| ■長寿会 | ■交通安全協会 | ■西小川協議会 |
| ■体育協会 | ■消防団 | ■スポーツ少年団 |
| ■子ども会 | ■遺族会 | ■農業協同組合 |
| ■保育所保護者会 | ■食生活改善推進協議会 | ■保育所 |
| ■幼稚園PTA | ■部落解放同盟 | ■幼稚園 |
| ■小学校PTA | ■地域安全推進協議会 | ■小学校 |
| ■母子愛育班 | ■青少年健全育成委員会 | ■駐在所 |
| ■民生児童委員協議会 | ■保護司 | ■コミュニティセンター |

コミュニティ生涯学習クラブ活動

ク ラ ブ 名	活 動 回 数	会 員 数
ヨーガ	毎週 1 回	1 3 名
大正琴(すずらん会)	毎月 3 回	1 2 名
大正琴(コスモス会)	毎月 3 回	1 0 名
水彩画「楽画」	毎週 1 回	1 2 名
川西子ども書道クラブ	毎月 4 回	1 4 名
気功・太極拳クラブ	毎週 1 回	1 4 名
アートフラワークラブ	毎月 1 回	1 0 名
民舞クラブ	毎週 1 回	1 0 名
トールペイント	毎月 1 回	1 1 名
手芸(川西たんぽぽNC)	毎月第 1. 3	1 0 名
ふじ美日舞教室	毎週 1 回	1 3 名
みんなで楽しく健康つくろう会	奇数月・第 4	1 9 名
生花教室	毎月第 2. 4	1 2 名
スクエアダンス(Funny S. D. C)	毎週 1 回	1 0 名
春日詩吟会	毎週 1 回	1 2 名
カラオケ同好会	毎月 3 回	1 1 名
手話クラブ	毎月 2 回	1 9 名
民踊(向日葵会)	毎週 1 回	1 0 名

川西まちづくり計画策定委員

氏名	所属・役職
富田 重義	川西地区地域づくり推進協議会名誉顧問
河崎啓太郎	川西地区地域づくり推進協議会顧問
松永 時和	川西地区地域づくり推進協議会顧問
田岡 美晃	川西地区地域づくり推進協議会顧問
山地 敏照	川西地区地域づくり推進協議会顧問
岩崎加須子	川西地区地域づくり推進協議会顧問
田岡 康子	川西地区地域づくり推進協議会顧問
中東 義照	川西地区地域づくり推進協議会顧問
河井 一美	川西地区地域づくり推進協議会 元事務局長
石野 輝敏	川西地区地域づくり推進協議会 元事務局長
岩崎 正朔	川西地区地域づくり推進協議会会長（川西地区連合自治会長）
宮崎 茂	川西地区地域づくり推進協議会副会長（川西地区長寿会会長）
北山 齊伯	川西地区地域づくり推進協議会副会長（西小川協議会副会長）
草薙 貞子	川西地区地域づくり推進協議会副会長（川西地区婦人会会長）
橘 薫	川西地区地域づくり推進協議会監査（川西北団地自治会会長）
多田 光廣	川西地区地域づくり推進協議会監査（丸亀市市議会議員）
松永 恭二	川西地区地域づくり推進協議会幹事（丸亀市市議会議員）
新名 敏	川西地区地域づくり推進協議会福祉部部长（民生児童委員地区会長）（前）
宮本 数敏	川西地区地域づくり推進協議会福祉部部长（民生児童委員地区会長）
富田 導	川西地区地域づくり推進協議会総務部部长（西小川協議会副会長）
杉峯 正夫	川西地区地域づくり推進協議会青少年健全育成部部长 (市体育協会城辰支部監事)
大谷 透	川西地区地域づくり推進協議会環境部部长（庄自治会会長）
守家 学	川西地区地域づくり推進協議会体育部部长（市体育協会城辰支部長）
伊藤 幸則	川西地区地域づくり推進協議会会計・書記・コミュニティセンター職員
岩崎 房義	まちづくり計画編集委員

(順不同)